急ぎの欧米旅行より歸りて

山本一清

去る6月19日の早朝に横濱を出帆して，9月24日の夕暮れに同じ横濱に歸着するまで，前後97ケ日の忙しい歐米旅行が，恙なく茲に終りました．公用としては，8月3日から同月10日までスエーデン國の首都ストクホルムで開かれた國際天文同盟總會に出席するのにありましたが，滯歐中に煩らずも寸暇を獲て，永く望んでゐたチウリンギヤに遊び，マルチン・ルーテルや，ゲーテの遺蹟を親しく視ることが出來たのは，嬉しい思ひ出となります．

旅行の日程としては，大體に豫定してゐたコースに從ひ，

6月19日--7月5日	17ケ日(日附變更線通過のために1日を加ふ) 橫濱よりロスアンゲレス港へ，太平洋橫斷．
7月5日—同 13日	8ケ日 ロスアンゲレスよりニウヨークへ，米大陸橫斷．
7月14日—同 22日	9ケ日 ニウヨークよりハムブルグへ，太西洋橫斷．
7月24日—8月2日	9ケ日 ドイツ，デンマルク，スエーデンの各地を巡遊，主として中部ドイツに於けるルーテルの遺跡を訪ふ．
8月3日—同 10日	7ケ日 國際天文同盟總會のため，スエーデン國の首都ストクホルムに滯在．
8月10日—同 12日	2ケ日 スエーデン，デンマルク，ドイツを經て，オランダ國ロテルダム港へ．
8月13日—同 21日	11ケ日 ロテルダムよりニウヨークへ，太西洋橫斷．
8月25日—9月7日	13ケ日 ニウヨークより，ピツバーグ，シカゴ及びサンフランシスコ經由ロスアンゲレスへ，米大陸橫斷．
9月7日—同 21日	16ケ日(日附變更線通過のため1日を省略) ロスアンゲレス港より橫濱へ，太平洋橫斷．

私は“旅容”を持つて海外に出張したのは，之れが6回目でありますが，しかし，こんどは比較的短かい期間に，太平洋と太西洋とを，何れも往復しましたため，總計97ケ日のうち，53ケ日を船のキヤビンで暮したわけで，旅行日數全體の55%，卽ち半ば以上を，海上に送つたのは，空前のことであり，又，多分，絶後のこととともなりませう．——幸ひに，この變化激しい旅行中，身體は極めて强健で，輕い風邪一つ引かず，始終，用心のため，宅から持つて出た二つ三つの藥など，全部，封も切らずに，又こゝに持つて歸りましたのは，幸福

でありました.

最初に，**横濱**から乘つた“**照國丸**”は，神戸の川崎汽船會社の所有船で，元々デンマルク國で建造したものであると云ふのも，北歐へ行く私の旅立ちの船として不思議な因緣と考へられます．噸數は約6500トンで，一寸碎氷船の形に似たモダン貨物船ですが，川崎汽船では，國力發展の現代に應ずるため，最近年この船を購入し，可なり思ひ切つた改造を內部に加へ，一見殆んど新造船かと見紛ふほどに手を入れ，この6月の出帆は，米國ニウヨークに處女航海の門出でありました．勿論，スピードも優秀で，往航の途中の或る日など，時速15.93マイルを走つたことがあります．エンジンはデイゼル式です.

乘り合ひの船客は，神戸商大の岡野氏と私と，2人きりでしたが，各々廣々としたキヤビンを一つづゝ貰ひまして，朝夕，好きな日本食をたべ，日本服に日本語といふ生活でした．私は，こんどは，例に似ず，船へ夥しい荷物を持ち込んで，長い航海中，ゆつくり研究と調査と論文執筆と讀書とをしました.

船は7月2日の午後，金門橋の下をくぐつて，**サンフランシスコ**港の第45號岸壁に着きましたが，之れが土曜日，翌日が日曜，更に其の翌日が米國獨立記念日といふので，荷役は多少延びました．其のため，恰も市內マイケト街に於いて獨立祭の盛大な公式パレードを見る機會を獲ました.

私は，始めは，此の船で，パナマを經由して，ニウヨークまで乘る豫定でありましたが，急に，太西洋橫斷の船便の都合上，**ロスアンゲレス**港で下船し，陸路をニウヨークへ急ぐこととなりました.

アメリカの汽車には，私は可なり馴れてゐる自信があります．それで，今回は，ロスアンゲレスからニウヨークまで，若干の用事を果しつゝ，成るべく今まで經由しなかつた道を取らうと企てました．そして，鐵道會社で買ひ求めましたクリポンにより，ロスアンゲレスからオグデンまで南太平洋鐵道，それからセントルイスまではワバシ鐵道，セントルイスからシンシナーチとワシントンを經てニウヨークまではボルチモア・オハヨ鐵道によることゝなりました.

オグデンの手前では，かのモルモン宗で有名な**ソルト・レーキ市**を見ました．**セントルイス**へは，クラーク博士に會ふために下車したのですが，或は，よほど以前に亡くなつたものか(？)，誰も詳しい事狀を知りませんでした．それで，

其の翌日**ワシントン府**に下車した序でに，舊知のブラシ博士をコングレス圖書館に訪ね，クラーク博士の事蹟の調査を依頼して置きました．

ワシントンでは，例により海軍天文臺を訪ね，ロバートソン博士から南米ブラジルに於ける1940年十月1日の皆既日食線の位置（未發表のもの）を示され，寫し取りました．此の時，偶々リウイス夫人から“昨1937年六月8日のペルーに於ける日食の接觸時刻”に關する私の觀測が，カントン島に於ける米國隊の觀測とよく一致し，誠に見事な成績であつたと賞められました．

ワシントンでは，又，スミソン學院にアボト博士を訪ね，太陽熱の變動と天氣との關係について最近研究の模様を聽取し，ストクホルムで再び御目にかゝる約束で，別れました．

七月11日に**ニウヨーク**に着き，船會社や，銀行や，其の他いろいろの用事をすませて，13日に第86號突堤から“**ドイツランド號**”に乘り込み，翌朝，夜半過ぎ滿月光を浴びつゝ出帆しました．

ドイツの船は私は初めてですが，20000トンの此の船は整頓もよく出來，秩序や訓練も見事で，航海は誠に心地よく，速力は平均毎時20浬を出しました．海上は幸ひに波少なく，又，多少の風浪にも船は殆んど搖れない裝置が備はつてゐて，流石，こゝは世界航路中の大往還であることを思はせました．

船は，太西洋を乘り切つて後，アイルランドの**コブ**港，フランスの**シエルボルグ**港，及び英國の**サザンプトン**港に寄りましたが，何所も，沖に投錨して，ランチで客や荷を運びました．又，英國海峽は，こんどは案外に波が靜かでしたけれど，霧が深くて，多くの船舶が霧笛を吹きながら往き交ふ有樣は些か不安の心を人に抱かせましたが，之は杞憂でした．

七月22日正午，船はハムブルグ外港たる**ククスハーフエン**に着きました．船上の客と，陸上の出迎ひ人たちとが，早くから右腕を擧げてナチス式の挨拶をなし，又，盛んに國歌など歌ひ交はしましたのは，見てゐて，嚴肅な感じを受けました．——其の夕暮れ，汽車でハムブルグに運ばれましたが，折から觀光客が殺到して，ホテルは皆殆んど滿員でした中に，漸く一つの室室をライクスホーフ・ホテルに見つけた有樣でした．

ハムブルグは私は14年ぶりですが，未知の場所が多いので，1日，C. V. J. M.

（基督教青年會）のオビツ君に連れられ，アルスタ丨濱から市廳廣場，新舊のスタインヱヒ通り，ビスマルク記念像，海洋觀象臺，エルベ濱，河底トンネルに至るまで一順しました．

北歐の會議地に行くまで約10日間の餘猶があるのを利用し，ドイツの中部のチウリンギヤあたりを巡歷する計畫を，既に船中で立て，周遊切符も買ひ求めましたので，愈々七月24日の朝，宿を出で，**ブレ丨メン，ハンノフア，ゲチンゲン，アイゼナハ，エルフルト，ワイマア，イエナ，ライプチヒ，アイスレ丨ベン，ヰテンベルヒ，ベルリン**の順序に，樂しみつゝ獨り旅をしました．ブレ丨メンは百年前の偉大なるアマチユア天文家オルバ丨スの遺蹟，ハンノヴはプラネタリウムとライプニツの家，ゲチンゲンでは有名な大學の構へや，ガウス，ヱ丨ベル等の遺蹟，イエナではカ丨ル・ツアイス會社の訪問等を主な目的としましたが，其の他の市々では，四百年前の宗教家ル丨テルの跡を尋ねるのを主目的としました．只ワイマアは序での道寄りで，ゲ丨テの家に半日を費したばかりでした．

アイゼナハも，エルフルトも，アイスレ丨ベンも，ヰテンベルヒも，（イエナでさへも）皆その土地の人々は“ル丨テル都市”と呼んでゐます．實際，第16世紀の前半，ル丨テルは此の古典的な町々を縱橫に活動したのでせうが，今この一介の旅行者が，慌だしい夢を追ひながら經巡つた印象としては，何と言つてもワルトブルグの古城の內外，エルフルトの大學や修道院の跡，アイスレ丨ベンの田舍びた町角にあるル丨テルの生誕の家や，其の臨終の家，ヰテンベルヒの博物館と，又，“城內教會”の中にメランヒトンと共に眠るル丨テルの墓など，いつまでも忘れられぬものであります．——巡遊の道順も，偶然ながら，私が採つた順序が良かつたと思ひました．ワルトブルグ城はル丨テル遺跡巡禮の壯麗なる序曲で

アイスレ丨ベンのル丨テル像

あり，ヰテンベルヒは其の大詰めにふさはしい重みと内容とを有つて居ます．（若し之れを逆の順路で巡つたとしたならば，ヰテンベルヒの豊富な博物館と，整備した城内教會とを先づ見たことによつて，其のあとのアイスレーベンや，イエナや，エルフルトは言ふまでもなく，ワルトブルグ城でさへも，多少の物足りなさを感じたでありませう．）

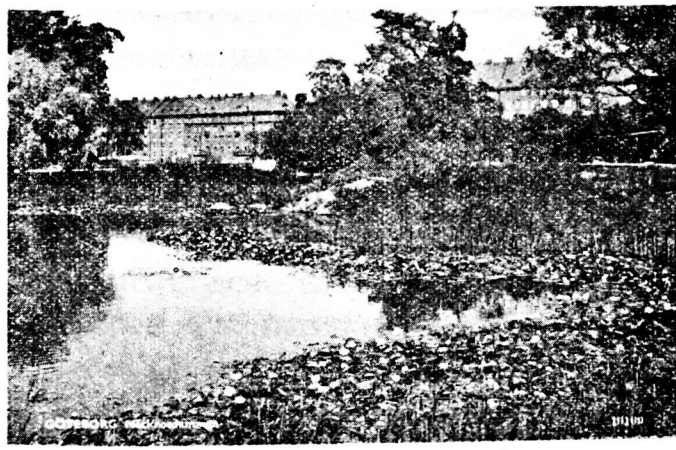
チウリンギヤの森や町々の道を通りぬけて，**ベルリン**には七月30日に到着しましたが，こゝでは現代ドイツの典型的な緊張ぶりを見たことと，久しぶりで日本食をたべたことだけでした．其の翌日は又**ハムブルグ**に立ち戻つて，午後の半日をハーゲンベクの動物園に費しましたのも，單なる暇つぶしでありました．

八月1日から愈々北歐に向ひましたが，元來スカンヂナヰヤは，私に取つては始めての土地ですけれど，近年，友人などから種々此の地方の事情を聞いてゐましたので，出立の前から私は可なりのあこがれを持つてゐました．只，こんどの旅行に，日數が少いため，充分な觀察は決して出來ないものと諦め，止むなく，出來るだけ希望に近いプログラムを立てたのでした．それで，多少の無理と不便を忍んで，先づハムブルグから眞つすぐに汽車で一路北上，デンマルクの北端に近いフレデリキスハーフン港まで縱斷しました．と言つても，國が小さいので，只之れは僅々10時間の旅でしたが，しかし，途中では，**キール運河**の眺め，**フレンスブルグ**に於ける新しい獨丁國境の狀景，デンマルクの物靜かな田野や，平和な牧場の風景，**フレデリシヤ**の海峽と大橋，**アールスやアールブルグ**の都市景觀など，尙ほ又，乘り合ひ客や，汽車のボーイの親切に至るまで，此の一日の旅は誠に嬉しいものでありました．

フレデリキスハーフンから對岸のスエーデン國ゴテボルグ港まで，バルチク海の入口をなす**カテガト海峽**の渡船も，可なり世間ばなれのものでしたが，此の甲板上から見た波に沈んで行く赤い太陽の最後の美しい綠閃光は，5秒時間にもわたる立派なものでした．あとから，16ミリのフイルムに撮影すれば良かつたと殘念がりましたが．

スエーデン國隨一の商港**ゴテボルグ**の夜景と，翌朝の街々や公園の景色など，之れが瑞國の第一印象でしたが，此所から，首都ストクホルムまでの汽車の旅

も亦ほゞ豫想を裏切らない愉快なものでした．車窓の景色に變化もあり，空氣は清澄，氣候は冷凉で，眞に晴れやかな，世を超脫した心地でした．今更ながら中部ヨーロッパの(否，歐米は言ふに及ばず，全世界の)政治的，社會的にも物理的にも，にごつた有様と比べて，北歐の別天地の良さが感ぜられました．



ゴテボルグの公園の一部

旅行の大目的たる國際天文同盟總會は豫定の如く八月3日から始まりました．私は開會前日の2日に**ストクホルム**に到着し，直ぐ其の日から，屆出でや其の他職務上のいろいろの事務が始まりました．開會式は市の音樂堂で開かれましたが，學術上の議事は皆國會議事堂の大小各室で催されました．3回の總集會のほか，何しろ31種の委員會が毎日入り亂れて行はれるのですから，皆々非常に忙はしく，殆んど會ひたい人にも，開期中は遂に會へないことさへある有様でした．私は，組織上，又，研究上，流星，太陽黑點，變星，文獻，彗星等の委員會に出席し，又別に黃道光委員會の座長をも勤めましたし，尙ほ恒星のスペクトル問題や，宇宙構造論等の聯合會にも列席しましたので，毎日眼のまはるやうにさへ感じました．

嚴密な學術會合のほか，開期の8日間には，王宮への御招待を始め，市長主催の歡迎會や，瑞典國內委員の主催による午餐會や，晩餐會や，其の他，サルチエバーデン海濱や天文臺への案內，多島海への巡航，ウプサラ學都や古ウプサラへの外遊，スカンセン天然公園やプラネタリウムへの案內など，又，ハー

ブレド大學天文臺關係者の懇親會其の他いろいろの催しがあつて，世界各地から來會した500人の者相互が，充分に舊交を温め，新交を結び，誠に樂しく嬉しき日夜を暮しました．——來會者の約半數はアマチユア天文家や，退職學者でありますが，此等いろいろの人と共に，平素特に人なつかしがりの公私天文家たちが，遠近から久しぶりに一ケ所に集まつたのですから，其の賑々しく，なごやかな空氣は，ストクホルム市の中央部に溢れて，可なり異常な風景とも見えたことでせう．

八月10日，最後の日，午前の總集會では，各委員會で決した決議案を上提，全部承認し，午後の會では，次期の委員會と其の各委員の顏ぶれを定め，尙ほ新同盟長にはエデントン教授を擧げ，次の第七回總會は1941年にスヰスで開くことも滿場一致で贊成．こゝに目出度たく閉會しました．

私は，尙3ケ年間，黃道光委員會を主裁し，其の委員を任命する權能を與へられましたほか，流星と，日食との，各委員會のメンバーに推薦されました．尙ほ，彗星と，文獻との各委員長からは，今後の研究について重要なる若干の依囑を受けました．

私は閉會式の其の日の夕刻，驛頭で萩原博士の見送りを受けて，**ストクホルム**を出發し，**マルメー**，**コペンハーゲン**，**ゲゼル**，**ワルネミユンデ**を經て，三度び**ハムブルグ**に歸着し，荷物を引き纏め，直ぐ又汽車に乘り繼いで，翌朝オランダ國の**ロテルダム**港に着き，其の，夜"**フオレンダム號**"に乘つて，ニウヨークへ出帆しました．當時，歐州全般はチエコ・スロヴキヤ國をめぐる不安の空氣がたゞよひ，ドイツは今ライン地方に百萬の豫備軍を動員して，未曾有の大演習をやつてゐましたので，オランダの此の船中でも，船客は日夜無電ニウスを待ちこがれる有樣でしたが，ブーローヌと，サザンプトンとに寄港した後は，一直線に太西洋を横切り，八月23日の夕暮れ，コニー・アイランドの燈火美しい**ニウヨーク**港内に無事到着，投錨して一夜を過した後，翌朝，客は一同上陸しました．

歸路のアメリカでは，私は**フイラデルフイヤ**，**ハリスバーグ**，**ピツバーグ**，**シカゴ**の道順を採り，八月29日**サンフランシスコ**に着き，翌日此の港から我が帝國に向ふペルー國の經濟文化使節團の一行を載せた龍田丸の出帆を見送つた後，再び

南下して**ロスアンゲレス**に歸着し，數日の船待ちの間に長田，高村，高木，3氏等と，モハヽベ沙漠で曉天に黄道光を觀察したり，又，ロス市内では，日系第二世たちのパレードや，勞働祭の行列等を見る機會を得ました．

それから，私は九月6日，最初渡航の"**照川丸**"に又々乘り込むことゝなり，乘り合ひの岡野君も同じまゝで，翌7日ロスアンゲレス港を出帆しました．船は滿船の荷物を積んで，二週間餘の航路を，ほゞ北緯35°の線に沿つて取りつゝ，横波に多少搖れつゞけましたが，いよいよ日本に近づいた頃，小笠原方面から來る颱風におびやかされつゝ，巧みに其の影響を避けて，九月24日午後日出たく**横濱**港内に入りました．

前後一百日未滿の旅で，太平洋と，太西洋と，北米大陸とを往復し，あはたゞしい國際風雲のみなぎる中に，幸ひ何の恙も無く，學會參列の使命を果し，剩へルテル遺跡の巡禮も終へ，健康を維持して，無事に元の鄉國に歸りましたことは，誠に幸福でありました．此の旅中，見聞した點は決して多くはありませんけれど，それでも，日支の事變が歐米各國に與へてゐる影響や，14年ぶりに見る中歐のありのまゝの姿，又，昨年から今年へ僅か一年の間にも變化の激しい米國の社會事情など，旅でなければ獲られぬ印象を經驗したのは有意義でありました．（終）

長田政二氏逝く

米國の南カリフオニヤに於いて大きい農業を經營する傍ら，天文學の趣味に生き，1931年には一新彗星を發見して，永く學界に其の名を殘し，尙ほ，我が邦人のために外國に於いて氣を吐きつゝあつた本會員長田政二氏は，去る9月8日，ロスアンゲレスの病院に於いて長逝したとの報知を Howard 氏から得た．哀悼に堪えない．長田氏は，人としても，天文家としても，既に可なり廣く知られた南加の名物男であつて，自分が近年渡米する度毎に必ず遠い其の農場からやつて來て，互ひにロス市で會ふことを樂しんでゐた純眞な人であつた．本會の米國支部幹事であり，又，米人社會のためにも獻身的な人であつた．"天界"第11卷以來，屢々氏の寫眞や記事があり，最近は第207號にも口繪寫眞として現れてゐる．（山本記す）